

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年八月度 入選句（投稿総数千二百二十七句・一般投句数七百七十三句）

特選

終戦忌この弾痕と生きて来し

安八郡輪之内町 野村照子

あの大戦で銃弾を浴びた。幸い命は取り留めたが、傷痕は残った。目に見える痕だけでなく心にも傷は残る。戦後何年たっても消えることはない。しかし、この句からはその弾痕の痛みを乗り越え、強く生きてこられた様子が窺える。

日輪を揺すりて揉めり荒神輿

安八郡神戸町 高橋泰

季語は神輿（夏季）祭りの傍題。日輪は太陽。この句の場合は神輿の上に飾られている太陽を模した金色に輝やく玉のことであろう。神社などの前で強く激しく神輿を揉む。担ぎ手から見れば、本物の太陽も大きく揺れ動いている。

恋心のこる再会白日傘

大垣市 多和田一徳

ドラマの一場面のような句。白日傘は熟年の女性を表す。何年ぶりの再会であろうか、当時好きだった人と会える心の昂りが伝わってくる。男にとつて、何時までたつてもマドンナはマドンナ。

秀逸

読まぬ書に書棚ふくるる大暑かな

愛知県名古屋市 舘野茂子

熊の鐘一打して青嶺への道

愛知県瀬戸市 田村清美

夏祓留守の家族の名も書いて

不破郡垂井町 児玉昌己

夕焼けの中へ去りゆく縄電車

愛知県尾張旭市 古賀勇理央

夕焼けにおされながらの影二つ

大垣市 野村みち代

結び目がほどけて空に散る花火

大阪府富田林市 吉長正紘

同じこと又問いかけて墓洗う

福井県福井市 三ツ山ひろし

瑠璃色の水面しぶきて鮎釣らる

大垣市 喜田守

迎え火をたいて煙草の封を切る

関市 瀬瀬隆朗

鷺草や大空見上げ咲いてをり

大垣市 川瀬美沙子

入選

いちじくの葉っぱはお皿昭和の子
 大垣市 安福けい子
 郭公の二鳴き幸の予感あり
 大垣市 安田むっこ
 天空にせまる棚田や青嵐
 大垣市 久保田悟義
 受診待つ一人の時間水中花
 不破郡垂井町 中嶋笑子
 チアリーダー炎天に声裏返す
 大垣市 永井田鶴子
 英霊とふ紙だけの兄魂迎
 愛知県名古屋市 小松とみゑ
 茗荷の子ほきほき折られおぼんざい
 大垣市 臼井秀子
 大夕焼補欠部員の声響き
 大垣市 片山洋紅
 消防の射ぬく水天高し
 大垣市 高田雅章
 晩夏光曳きて一船出港す
 大垣市 大西誠一

入選

村と村つなぐ青田となりにけり
 安八郡神戸町 高橋日出美
 寄せ返す窓辺の風に三尺寝
 大垣市 北浦典子
 ふる里の風すき通る夏座敷
 大垣市 大角信子
 蠍座の一入赤き夏の夜
 愛知県尾張旭市 古賀勇理央
 リュック背にうたふ園児や梅雨晴間
 揖斐郡揖斐川町 栗野みねお
 面舵や傾ぎしままに雲の峰
 大垣市 野村多佳子
 弟を叱る姉居て地藏盆
 福井県福井市 三ツ山しげ子
 下戸上戸集ふ窓辺に酔芙蓉
 大垣市 新町恵子
 青田風伊吹は深き雲の中
 大垣市 日比野友子
 蓮の花見え隠れして田舟行く
 大垣市 伊藤明美

選者吟

蟬に起き蟬に眠りぬ恙無し

武直